



美しく、艶やかに…

和のファッションを極める

料金後納

ゆうメール

染色クリエイター

加納 寛二の世界

会期 2014 6月13日(金) 14日(土) 15日(日)
10:00~19:00 15日のみ10:00~17:00

会場 松屋きものビル 2F イベントホール



itoyu

糸遊

羽衣装

HANEISHO

新しい感性と伝統を融合させた「糸遊」。軽い素材を使用し、光を通す透け感と着心地を考えたデザインは、まるで天女が身にまとった羽衣のように美しく艶やか。着る人のことを一番に考えて、着姿のシルエットや表情がいきいきと映えるように意匠をおこし、上品でありながら「同じものでも、どこか違う」きものをご提案します。



加納 寛二
プロフィール

西陣の地で百数十年にもわたり機屋を営んでいる旧家に誕生。1975年より染色、金彩工芸の修業を始め、1981年に実家でもある加納幸にて織物の研究をはじめ、1984年に現会社を設立。その後、ヴォーグ・パリ誌に和装で初めて掲載されたり、ニューヨーク・メトロポリタン館の日本館に作品を展示されるなど、国内外で活躍。日本文化デザイン会議の会員。現在、染色工房「スコープ・ココ」代表として精力的に創作活動を展開。

— 出品作品 —
訪問着・着尺・袋帯
オリジナルコーディネート小物

新体験!

この軽さ、この着心地
この透け感、そしてこのおしゃれ感。



進化する伝統美を求めて…

工房スコープ・ココ代表、加納寛二氏は西陣で130年の歴史を誇る機屋、加納幸の次男として生まれ、染屋での修業を経て加納幸で織の総てを学びました。

もの創りのコンセプトは、茶道の精神の中にある「守 破 離」—しゅはり—

守は伝統、破は革新的、離は独創性・オリジナリティの意味で、柄はあくまでも古典ベースで生地、取り方、色彩などで他との異なりを表現しています。

人とどこか違うお洒落で粋な雰囲気が漂う着物姿。親子で共用できる着物。

着物だけが目立つのではなく本当にその人にあった着物。さらに軽くて着心地がよく、シンプルで個性溢れる着物づくりを目指しています。



6月は梅雨で天の水がなくなる月…「水無月」と呼ばれ、気温や湿度も高くなりちょっとうっとおしい季節です。京の新感覚きものとこだわりの味覚のおもてなしで気分をリフレッシュしていただければと思います。

左の写真は京都西陣北野にある京豆腐の老舗「とようけや山本」のオリジナル「とようけや饅頭」。

大豆餡を豆腐と餡粉で包んだ砂糖控えめの上品な京の味をお楽しみください。ご来場心よりお待ちしております。

<松屋スタッフ一同>

utsukusikimono matsuya
うつくしきもの



逗子銀座通り 逗子市逗子1-6-1

フリーダイヤル 0120-073-529 / TEL. 046-873-1000

営業時間 AM10:00~PM7:00 毎週水曜定休

<http://matsuya.gr.jp>

うつくしきもの松屋

検索